

話じやれ (17)

岐久 ようこ

イノシシには負けそう

頑丈すぎる奴や!

古来より山里では言い伝えられてきた

「カナヅチで打っても砕けへん

タマに当たっても走り続ける

山里の先住民はコツチだと主張し

鼻息の荒いイノシシですが

ここんところ

「ハクビシンです」

「アライグマです」

新たな参入者が現れ警戒している

さいわい人々がそれを外来種目で

有害だと捕獲許可を出してから

減っているようですが

猪だけは!

チコちゃんみたいにヘソの緒から

笑ってる



イッコーさん マツコさん
ミッツ・マングローブさん
突っ走って活躍されている
外装は女であっても猪男
そろそろ鼠男に変えなさいよ

貫頭衣の マツコさんに 和装の
イッコーさん ミッツさん 洋すだれ

とこしえの宝塚

105年もの間を過ぎた名作が

フアンが熱が冷めた頃に再演される

「南の哀愁」もその一つかな

♪ 南の島 魅惑の島

そは美し わがタヒチ

タヒチを訪れた青年が

太陽が眩しくてツライというので

島の娘が青年のために

薬草を取りにでかけて見上げる

「危険な崖にしか生えていないのか」

「でも どうしても必要だ」

薬草を見つけ抜こうとしたがアツ!

そこでハブニング

ひと目惚れは危険が伴うもの

初演は春日野八千代さん

浜木綿子さん 剣さんと

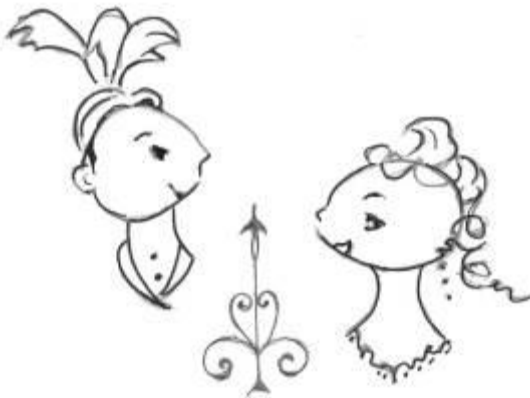
歌い継がれていく様は

まるでジシヤクのように

上級生から下級生へと歌は続く

「ベルサイユのバラ」は強力ジシヤクか
もう 宝塚の代名詞のごとく
くつついて離れない

磁石は 熱に弱いと いうけれど
熱烈な フアンもいつか 冷めていき



つみ重ねていくと

カリブ海と同じ緑色に輝く

ヒスイを王への貢ぎ物にしていた

マヤ遺跡の「ピラミッド」

王が死ぬと上に上へと積み重ねてきた石灰岩

「まだ続くはずだった?」

知る由もないけれど解っているのは

6キロ先きから運んだという石灰岩だけ

謎のトリコになった彼女は王と

前世からの巡り合わせなのか

4回も遺跡にやってきた

そのうち妄想で会話が出来るようになって

王に言葉をさしあげる

「アイラブユー」すると

「アイラブ バック」と返事が返って

「バックって?」

そんな遠くから来てもらわなくても

いいのにという意味かしら?

みんな忘れなさいって言っている

思いを重ねて陶酔してたのに

バーンと目が覚めた

頑丈な 石灰岩を 積み重ね

行く末も 繁栄信じた 王の歌



ナンセンスなお花見

花で賑やか

桜が国会で騒がれるなんて
当の桜も初めてと微笑んで

まず サクラ模様の百円玉が

昭和32年に発行が始まり

「小銭入れがあるみたいね」

ピカピカ硬貨のデビューでした

つぎが菊の花模様をあしらった50円玉

つぎに500円玉

「何の花かはつきりせん」うちに

500円玉が造られた

真ん中に穴があき回りを稲穂がたれて

黄金色のキンピカ

手持ちの500円玉は昭和43年と記されている

「古いこと！」

「結婚した年じゃない！」

ご縁が舞い降りた年なのに

黒ずんだ金ピカに見える

造幣局の「お花見」は続くが

「桜を見る会」は一応幕としている
嘘をつくのが上手？
下手だった？

咲きこぼす 花お互の ウソを知る
飲みましょ くだを巻いても 裁かれぬ

